

早いもので2020年も残すところ2か月足らずと
なっていました。いつまでも暑い日が続くと思
っていたら、あっという間に秋が来て、もう短い
秋が終わろうとしています。新型コロナウイルス感
染症は、諸外国にくらべ低め安定で発生し続けてい
ます。欧米では第2波、第3波の増加傾向で、夜間
の飲食店の開店禁止が報じられています。一日も早
い新型コロナ収束と昨年までの日常が戻ってくるこ
とを祈るばかりです。

さて、本号の特集は「小児科医のための呼吸器診
療のポイント」です。「小児の呼吸機能測定」では、
小児科医が敬遠しがちな呼吸機能検査の勧めが載っ
ています。「小児呼吸理学療法の考え方と実践」で
は、小児の呼吸理学療法の実践が述べられています。
「気道狭窄への臨床的アプローチ」では、気道狭
窄に遭遇したらどうするか、緊急事態を含め治療
の実践が述べられています。「小児の気道過敏性検査」
ではその方法と検査意義について述べられています。
「在宅呼吸ケアの実践」では、在宅での呼吸器管
理や酸素療法の実践、また通学の問題などが、「医療
的ケア児の嚥下評価」では、嚥下の評価法について

述べられています。読者の先生方には、呼吸器疾患
診療の実践についての特集をご熟読いただくよう
に、お願いいたします。

特集以外にも「インフルエンザ脳症の診療戦略」
「乳児の安全な睡眠環境」の総説を載せています。

診療欄では「周期性嘔吐症候群の疾患概念や診
断・治療とその問題点」と「運動器健診の実践」の
概説をいただきました。実臨床に役立つ内容です。
小児保健欄では、「保育園で集団発生した細菌性赤
痢」を、トピックスの欄では、「易感染性を呈する児
の観察調査」の論文が載っています。

症例報告では、「経口弱毒生ヒトロタウイルスワ
クチン接種後にロタウイルス性胃腸炎を発症した兄
弟例」と「環状紅斑と発熱を呈し出生後に診断した
新生児ループスの1例」が載っています。

「最近の外国業績より」では日本医科大学小児科教
室から消化器に関する論文を紹介いただきました。

以上、非常に充実した、日常診療に役立つ内容に
なっていますので、ご一読下さいますようお願い致
します。

(中西 敏雄)

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第61巻 第12号 11月号
2020年11月1日発行（毎月1回1日発行）
定価（本体2,700円＋税）

年間購読料金
定価（本体42,100円＋税）
〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕
〔年間予約購読者に限り送料無料〕
※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社
発行者 福村 直樹
〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14
Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕
Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕
Fax 03(3813)0288
<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>
振替口座 00130-1-191269
印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005
広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。
- ・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。